

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称	プロネーターZ（販売名：アース虫ケア AKN1）
整理番号	K21541-0
会社名	アース製薬株式会社
住所	〒101-0048 東京都千代田区神田司町二丁目 12 番地 1
担当部門	開発薬事部
電話番号	03-5207-7464
FAX番号	03-5207-7485
作成／改訂年月日	2024 年 04 月 22 日 作成

2. 危険有害性の要約

GHS分類		
物理化学的危険性	エアゾール	区分 1
健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 1（中枢神経系、全身毒性）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1（血液系）
		区分 2（呼吸器、肝臓、脾臓）

上記で記載がない危険有害性は、分類できないか区分に該当しない。

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語	危険
危険有害性情報	H222 極めて可燃性の高いエアゾール H229 高压容器：熱すると破裂のおそれ H319 強い眼刺激 H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い H370 臓器の障害（中枢神経系、全身毒性） H372 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（血液系） H373 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ（呼吸器、肝臓、脾臓）

注意書き

【安全対策】

- P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P211 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
P251 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
P264 取扱い後は、手をよく洗うこと。
P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P260 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

【応急措置】

P305+P351+P338 眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P337+P313 眼の刺激が続く場合は、医師の診察／手当てを受けること。

P308+P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合は、医師の診察／手当てを受けること。

P308+P311 ばく露又はばく露の懸念がある場合は、医師に連絡すること。

P321 特別な処置が必要である。

P314 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。

【保管】

P410+P412 日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。

P405 施錠して保管すること。

【廃棄】

P501 内容物／容器を自治体の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
成分	ブロフラニリド：0.95g イソプロパノール（1%以上） DME その他2成分

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 異常が残る場合は医師に相談する。
皮膚に付着した場合	水で洗い流す。異常が残る場合は医師に相談する。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗う。異常が残る場合は眼科医に相談する。
飲み込んだ場合	水でよく口の中を洗浄する。異常が残る場合は医師に相談する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	泡（初期火災）、二酸化炭素、粉末
使ってはならない消火剤	情報なし
火災時の特有の危険有害性	エアゾール製剤であり、着火後爆発の危険性があるため、直ちに避難する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 作業の際には保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉じん、ガスを吸入しないようにする。
環境に対する注意事項	流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	吸着剤（おがくず、土、砂、ウエス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

容器を転倒、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。

安全取扱注意事項

定められた使用方法を守ること。

使用に際しては個箱や缶の製品表示をよく読んでお使いください。

注意-人体に使用しないでください。

横や逆さまにして噴射しないこと。

噴射前に噴射口の方向をよく確認して、薬剤が顔などにかからないようにすること。

人体用虫よけ剤ではないので、人体には使用しないこと。

人体に向かって噴射しないこと。

薬剤を吸い込まないこと。

万一、身体に異常が起きた場合は、できるだけ本品を持って直ちに本品がメタジアミド系殺虫剤(GABA 作動性塩素イオンチャネルに作用)であることを医師に告げて診療を受けること。

定められた用法及び用量を厳守すること。

本品を隙間に噴射する場合は、1 部屋あたり 4 ヲ所までを目安とし、過剰に噴射しないこと。効果を感じにくくなったら、再度処理を行うこと。

本品を空間に噴射する場合は、1 週間以上の間隔をあけて使用すること。

噴射後 30 分間閉め切った後、時々部屋の換気をする。

噴射中は噴射する人以外の人の入室を避けること。

噴射口をふさがないこと。

噴射できなくなることがあるので、缶を横向きや逆さまにして噴射しないこと。

噴射中に、薬剤が皮膚や眼にかからないように注意すること。

薬剤が皮膚に付いたときは、石けん水でよく洗い、眼に入ったときは、直ちに水でよく洗い流すこと。

アレルギー症状やかぶれを起こしやすい体質の人は、薬剤に触れたり、吸い込んだりしないようにすること。

飲食物、食器、飼料、おもちゃ、観賞魚・小鳥などのペット類、観賞植物などにかからないようにすること。特に、観賞魚・観賞エビ等の水槽や昆虫の飼育カゴがある部屋では使用しないこと。

殺虫剤なので、小児には使用させないこと。

火気と高温に注意

高圧ガスを使用した可燃性の製品であり、危険なため、下記の注意を守ること。

① 炎や火気の近くで使用しないこと。

② 火気を使用している室内で大量に使用しないこと。

③ 高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所やストーブ、ファンヒーターの近くなど温度が 40 度以上となる所に置かないこと。

④ 火の中に入れないこと。

⑤ 使い切って捨てること。

保管

安全な保管条件

直射日光（車の中等）や火気を避け、子供の手の届かない涼しいところに保管すること。

安全な容器包装材料

製品使用容器に準ずる。

8. ばく露防止及び保護措置

保護具

必要によりマスク、保護手袋／眼鏡／服等の適切な保護具を着用

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	エアゾール製剤、原液は液体
色	黄色の不透明～濁り
臭い	わずかに特異なおいを有する。
沸点又は初留点及び沸点範囲	情報なし
可燃性	情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	情報なし
引火点	16.2℃（原液）
自然発火点	情報なし
分解温度	情報なし
p H	情報なし
動粘性率	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び／又は相対密度	0.804±0.01（20℃）
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性	反応性なし
化学的安定性	製品として3年間の安定性が推定されている。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	熱（特定温度以上の加熱など）、圧力、衝撃、静電放電、振動、他の物理的応力など
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性 経口毒性（LD50 値）	ラット 雄／雌 5g/kg 以上
皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2
呼吸器感作性又は皮膚感作性	区分に該当しない
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
発がん性	区分に該当しない
生殖毒性	区分2
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分1（中枢神経系、全身毒性）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1（血液系）、区分2（呼吸器、肝臓、脾臓）
誤えん有害性	区分に該当しない

12. 環境影響情報

製品としての環境有害性情報：製品としての情報なし	
生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生態蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし

オゾン層への有害性	情報なし
-----------	------

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	製品に記載された方法や内容物を各自治体で定められた規則に従って廃棄すること。
汚染容器・包装	空容器やフィルム等は各自治体で定められた規則に従って廃棄すること。

1 4. 輸送上の注意

国連番号	UN1950
品名	エアゾール
国連分類	2.1
副次危険性	－
容器等級	－
国内規制がある場合の 規制情報	情報なし

1 5. 適用法令

化管法	該当しない
労働安全衛生法	該当しない
毒劇物取締法	該当しない
化審法	該当しない
消防法	危険物 第四類 アルコール類 非水溶性
薬機法	防除用医薬部外品
農薬取締法	該当しない
高圧ガス保安法	可燃性ガス

1 6. その他の情報

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の手扱いを対象としたもので、特殊な手扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。